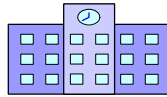


学校だより第5号 令和元年7月19日(金)

学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



さいたま市立木崎小学校

— 児童が目を輝かせて、
明日の授業を楽しみにする学校 —

TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp



「おもしろい」から始まる“学びの連続”を求めて

校長 豊島 登

4月に平成31年度として始まった1学期は、5月から令和元年度となり、本日無事終業式を迎えることができました。こんなに“暑くない7月”を過ごしたのはいつ以来でしょうか。本来はうれしいはずの水泳学習が、ぶるぶる震えながらの苦行?になっていたのではないかと心配になります。梅雨明けは、夏休みに入ってからとなりそうです。夏本番の暑さに負けず、楽しく有意義に過ごしてほしいです。

さて、私たちは日々よい授業を求めて研鑽を積んでいます。それを実現するのは容易ではありません。この長期休業期間中も、学校として、教員個人として、大いに研修に励む機会となります。本校が研究を進めている「アクティブ・ラーニング」は、「主体的、対話的で深い学び」と言い換えられて、新しい学習指導要領に取り上げられました。これは、授業改善のために大切な視点であると考えています。

主体的な学び、対話的な学び、深い学びの3つは、セットで考える必要があります。主体的でない深い学びはあり得ないし、いくら主体的に活動しても、本質に触れることができなければ子どもの変容は望めないからです。また、対話的な学びには、人との対話だけでなく、自分自身との対話やモノとの対話が含まれています。子ども間の対話が重視されているようにとらえられますが、私は自分自身との対話、すなわち言葉を自在に操って頭の中で思考する力が重要であると考えています。そうやって、深い学びにつなげていくことが求められているのだと思います。

私は、学校経営方針の一つに、「おもしろい授業への挑戦」というスローガンを掲げています。「おもしろい授業」は、子どもの学ぶ意欲（内発的動機）を喚起します。おもしろい学びの経験は、次の学びへの原動力となります。そうやって学びは連続していきます。学びの連続性が継続している状態こそ、私たちが求める子どもの学びの姿です。

本校の研究は、アクティブ・ラーニングを授業改善につなげ、一人ひとりの教員の授業力を高めようとするものです。昨年度より、さいたま市教育委員会の研究指定をいただき、今年度は11月に発表会を開催します。国語、算数、体育の3教科で研究授業を実施し、市内の多くの教員に向けて提案をいたします。全国学力・学習状況調査の作成協力員でもある早稲田大学教職大学院教授の田中博之先生が提唱されている“深い学び20の技法”を拠り所にして、実際の学習の中で、子どもがどのように変容したかを見取りたいと考えています。



本校は、「学校に行くのが楽しい」という子の割合が、全国や市の平均よりもずっと高いということはすでにお伝えしているところですが、教員の授業改善の工夫によって、さらに一味ちがった子どもの姿をご覧いただけるようにしたいと考えています。